

## 平成20年 第2回定例会一般質問

○議長 横尾 武志君

10番、益田議員の一般質問を許します。益田議員。

○議員 10番 益田美恵子君

皆様おはようございます。まず初めに、先日は私事で大変ご心配をおかいたしましたことをおわび申し上げます。ご心配かけました。それから、このたびは女性管理職の登用、また、誕生を心から喜んでおります。おめでとうございます。

それでは、10番、益田美恵子、一般質問をさせていただきます。

初めに、子ども読書活動推進計画についてお尋ねいたします。

1、国は、平成13年に「子どもの読書活動の推進に関する法律」を公布、施行し、基本理念を定めるとともに、国及び地方公共団体の責務を明示していますが、芦屋町の今後の方向性、子ども読書活動推進計画の予定がおありかどうかについてお尋ねいたします。

2、図書館が1階、2階に拡張、リニューアルされると聞いていますが、同時に館長を置くべきだと思いますが、いかがでしょうか。

3、全蔵書数、その中の毎年の蔵書数と廃棄数、貸し出しの登録者数と登録率、登録者1人当たりの貸出冊数についてお尋ねいたします。

大きな2番といたしまして、学校図書館整備についてお尋ねいたします。

1、各学校図書館の全蔵書数、毎年の蔵書数と廃棄数、次に、学校別の貸出冊数、貸し出しの登録者数、国の蔵書冊数目標と学校蔵書冊数との対比、それから、司書教諭の配置状況について。

大きな3点目、4月23日「子ども読書の日」についてお尋ねいたします。

「子ども読書の日」に合わせての取り組みがありましたらお願いいたします。

それから、10分間読書運動があったように思いますが、読書運動の現状についてお尋ねいたします。

最後に、ブックスタートについてお尋ねいたします。

ブックスタートが制度化されて数年経過をしておりますが、保護者と子どもさんの反応と現状の推移についてをお尋ねいたします。

以上で1回目の質問を終わります。

○議長 横尾 武志君

執行部の答弁を求めます。社会教育課長。

○社会教育課長 本田 幸代君

それでは、まず1番目の子どもの読書活動推進計画についてご説明いたします。

子どもの読書活動の推進に関する法律第9条第2項では、「市町村は、子どもの読書活動の推進状況を踏まえ、子ども読書活動推進計画を策定するよう努めなければならない。」とされており、芦屋町では、現在、芦屋町小中学校読書活動推進会議で、この推進計画について検討しているところでもございます。平成22年度の図書館のリニューアルオープンに向けて策定したいと考えております。

続きまして、図書館館長の配置についてでございますが、図書館リニューアル後は床面積、蔵書数も大幅に増加します。図書館本来の目的であります本の貸出業務、レファレンスサービスや文化活動の充実を図るためにも専門的知識を有し、かつ図書館のかじ取りとなる館長がぜひ必要と考えております。

次に、図書館の蔵書数等につきましては、19年度末の数字で報告させていただきます。

蔵書数4万1,334冊、年間増書1,373冊、年間廃棄4,317冊、貸出登録者数は3,739人です。人口に対する割合で23.4%でございます。登録者1人当たりの年間貸出冊数は10.7冊で、1回につきの貸出冊数は3.5冊となっております。

以上でございます。

**○議長 横尾 武志君**

学務課長。

**○学務課長 富永 秋則君**

学校図書館整備についてということで、要旨1、各学校図書室の全蔵書数、毎年増書数と廃棄数、学校別の貸出冊数、貸し出しの登録者数についてということでございますが、私どもの学校にありましての数字を申し上げます。芦屋小学校、東小学校、山鹿小学校、中学校という順に数字を述べさせていただきますように思っております。

なお、19年度ということで数字を読み上げます。

増書数、芦屋小学校1万313冊、東小学校1万717冊、山鹿小学校9,817冊、中学校1万7,670冊。

蔵書数ということでふえた数でございますけれども、学校名は除きまして、順に209、188、437、450ちょうど。

続きまして、廃棄数ということでございます。芦屋小学校から250ちょうど、632冊、山鹿小学校196、中学校265でございます。

学校別の貸出冊数ということでございますが、同じく19年度中ということで、先ほど申しました学校順に数字を報告いたします。芦屋小学校6,352、東小学校6,673、山鹿小学校6,212、中学校1万1,550ちょうどでございます。

それから、貸し出しの登録者数ということでございますけれども、貸し出しの登録者数というこ

とは、私どもは全児童生徒ということになっておりますので、全児童生徒数ということで、芦屋小学校334、東303、山鹿451、中学校494ということでございます。

要旨2番目につきましてでございますが、国の蔵書冊数目標と学校蔵書冊数との対比(%)についてということでございます。

国の蔵書冊数というのは学校図書基準ということで、各学校の学級数に応じてその蔵書数を規定化しております。順に申し上げさせていただきます。これも同じ19年度ということで、芦屋小学校、基準でございます。8,360、13学級を対象にしております。東小学校、同じく8,360冊数、13学級。山鹿小学校9,560冊、16学級、中学校になりましては1万2,160冊、15学級。

それから、冊数、学校との対比でございますが、これは最初に申しました全蔵書数との比率で申しますと、芦屋小学校123%、芦屋東小学校128%、山鹿小学校103%、中学校にありましては145%ということになっております。

それから、要旨3番目の図書教諭の配置状況についてというお尋ねでございますが、これにつきましてはことし20年度4月1日時点で、教員新たに配置になっております。全体の教員の配置ということになりますが、この中にありまして司書教諭の有資格者ということでお答えをさせていただきます。芦屋小学校有資格者7名、東小学校3名、山鹿小学校5名、中学校2名。

以上でございます。

#### ○議長 横尾 武志君

社会教育課長。

#### ○社会教育課長 本田 幸代君

それでは次に、4月23日「子ども読書の日」につきまして、図書館における取り組みとそれにかかわる読書運動の現状をあわせて報告いたします。

図書館におきましては、4月23日の「子ども読書の日」の前後を含め、春の図書館祭りとして取り組んでおります。具体的にはパネルシアター、紙芝居、絵本の読み聞かせを行い、また、学校等の連携により、小中学生みずから推薦する図書の読書感想文や絵を展示するなど、子どもたちが本を楽しめるような企画を実施いたしております。

朝の10分間読書活動の件でございますけど、芦屋町小中学校で読書活動をボランティアで推進しておりますが、申し訳ございません。これに対する詳しい資料が今手元ございませんので、ご報告、後ほどさせていただきます。

それから次に、ブックスタートについてご説明いたします。

ブックスタートは平成14年度から実施し、本年度で7年目となります。現在は乳幼児の4カ月健診のときに図書館職員が出向いて本の読み聞かせを行い、その後、絵本2冊が入ったブック

スタートバックをプレゼントしております。本が心の栄養になり、温かい言葉で親子がリラックスできるきっかけづくりとなることを目的に実施しております。この結果、子育て中のお母さんと赤ちゃんの図書館利用者が増加し、子育て支援活動や読書推進活動につながっております。

以上でございます。

**○議長 横尾 武志君**

益田議員。

**○議員 10番 益田美恵子君**

ありがとうございました。それではまず、図書館の蔵書数ということでちょっとお尋ねさせていただきますが、平成19年度ですか、廃棄数が多くて蔵書数がちょっと少ないんですけれども、19年度に約3,000冊近く廃棄数の方が多くなっておりますけど、その理由をすみません、お願いします。

**○議長 横尾 武志君**

社会教育課長。

**○社会教育課長 本田 幸代君**

年間廃棄数、19年度が4,300となっております。これは前年度が都合により14冊しかしてなかったんですね。平均的には大体1,500から2,000冊ぐらいを廃棄してるのが通常でございます。

以上です。

**○議長 横尾 武志君**

益田議員。

**○議員 10番 益田美恵子君**

それでは、先ほどご答弁にありましたように子ども読書活動推進計画については、今度のリニューアルに合わせて推進を計画していきたいということでございますので、それを期待しておきたいと思えます。

それから、本当に教育委員会におきましては、学校教育、社会教育、それから、生涯教育と大変奥の深い分野で、日夜努力されておられるということは私たちも存じておりますし、次々と本当変化していく教育方針でございますので、その対応も大変だろうと思えます。今何か生涯教育の基本構想ですか、そういったものも手がけていらっしゃるということでございますので、しかし、子どもの読書というのは小さいときから、心の教育という、そういった小さいときから栄養を与えていこうと、そうすれば大人になったときにすさんだ心も和むのではないかと、そういった方向性が打ち出されて、力を入れていこうと、幼児教育から入れていこうということで、ブックスタートもスタートいたしましたようなことでございますので、ぜひ子ども読書活動推進計画

をつくっていただきまして、それに基づいて芦屋町もあらゆる努力を重ねていただければなど、このように思いますので、この点につきましては終わりたいと思います。

当然水巻との対比はできません。冊数からして、向こうも12万冊とか、それ以上の冊数があるわけですので、中身の充実を心がけていただきたいなと思います。芦屋町から水巻に借りに行かれる方が結構あるんですね。芦屋町登録者数が134名で、18年度が累計でも843名、それから、水巻町の図書館ですよ。貸出冊数が18年度が1万3,208冊で、貸出冊数の累計が5万9,543冊、これは5年間でこのように貸し出しを受けて、水巻まで行って、また、遠賀に行かれる方もあるようですね。

だから、行かれる方は、車があっっておいでになられる方はいいんですけども、車のない方とか、子どもさんをお持ちの方は身近なところによりよいものがあれば大変ありがたいかなど、このように思います。

それから、先ほど廃棄数の問題がございましたけれども、これは私ももったいないなという気持ちを以前は持っておりました。それでなくても、きちっと修整したりとか補整したりとか、担当の司書さんがなさってるようではありますけれども、学校図書廃棄基準の中に、「学校図書館の設置目的は、教育課程の展開に寄与するとともに、児童生徒の健全な教養を育成することにある。この目的を達成するためには、児童生徒および教員の利用に役立つ適切な図書館資料を質量ともに整備しておかなければならない。」と、このようにあります。

また、学校図書館の蔵書は多ければよいというものでもなく、常に利用価値の高い、新鮮な図書を備えることが必要です。汚れたり、データが古い本はほとんど利用されませんと、このように言われてるし、この廃棄基準を参考に廃棄を積極的に行いなさい。積極的ということとは相当年々、毎年新しい本が出てまいりますので、図書館をリフレッシュしましょうという、こういった廃棄基準というものがうたわれておりますので、図書館とか学校図書におきましても、一般会計の中に組み込まれてまいりますので、なかなか図書の方まで手が回らないという自治体においては、そういったところもあるそうです。

しかし、芦屋町におきましては、先ほど国の基準、申し上げてありましたけれども、100%既に超えておりますし、合計でも126%という国の基準を上回って蔵書を常に考えていらっしゃるということでございますから、その点については本当に喜ばしいことだなと思います。

多角的に今学校司書さんとか、連絡会議とかはあっているのでしょうか、図書館の今館長さんいらっしゃいませんよね。館長さんいらっしゃらなくて、司書さんが一生懸命頑張っているというので、どこの図書館にも館長さんがいらっしゃいますし、全国的な連絡協議会とか、県とか、また、市町村の協議会とかいうものはないのでしょうか、お尋ねいたします。

○議長 横尾 武志君

教育長。

○教育長 中島 幸男君

館長は、私が兼任しておるんです。申しわけございません。今議員がおっしゃるのは多分専任の館長をつくれというお話だろうと思うんですが、ぜひそうになっていただきたいなという思いは私も十分持っております。

今お尋ねで、じゃ学校図書、特に子どもたちの読書活動はどういうふうになるかと、今学校の図書司書と司書教諭と町雇いの司書がおります、図書館には。これは臨時ですから常勤ではございませんけど、図書に関しては各学校には2人そういう担当者がおります。そこらと定期的に、町の図書館の司書の方と定期的に読書担当者会というのを開いてまして、そこで学校からの情報、図書館からの情報等々出し合いながら、今先ほどご指摘のありました読書推進計画がまだできておりませんが、とりあえず学校と町の図書館と連携を図ってますので、その読書活動は推進してるというふうにとらえています。

しかし、図書計画をつくらないといけないというのは十分承知しておりますので、そのようにしたいと思っております。今ご指摘のように連携は十分図っておりまして、先ほど課長の答弁の中に朝読の話が、議員の質問にもございましたが、学力に非常に読書活動が影響を与えるというのはたくさんのデータが出ておりまして、今回の指導要領の中にも、特に学力間の中で、特に判断力だとか、表現力といったような、いわゆるそういう意味での学力が非常に重視されてます。基礎だとかいうところから学力観が出てまいります。その中で、読書活動というのは非常に意味があるということで、各学校は朝読をやっております。

ただ、これが毎日やってる学校と、月、水、金というふうに隔日にやってる学校ありますが、読書活動は推進しております。その中にボランティアの方々、読み聞かせのボランティアの方も入っていただいております、これは大変町民の方にありがたいと思っておりますけれども、そういう活動が行われておりますので、さらにまた町立の図書館が充実されますと、そこらの連携が図られるものだろうと思って期待しております。

以上です。

○議長 横尾 武志君

益田議員。

○議員 10番 益田美恵子君

学校図書館でおやりになってる、素晴らしいことではありますが、今度は他町との図書館、協議会等があるんですね。県立の場合でも、全国的な連絡協議会ではありませんけど、何か協議会があるみたいですね。

その中で、今度1、2階とリニューアルされていって、内容が充実したものを、芦屋町にでも、

向こうからでも借りに来られるような体制づくりが今から必要、個性のある図書館というんですか、そういったものもつくっていけばそれなりに、とりあえずそこに館長さんがいらっしやって、図書館同士の交流とか、情報交換とか、教育長がそれまでやってたら大変だと本当私は思うんですけれども、ここは町長にお聞きしないとイケませんので、館長の問題につきまして、今度、1、2階とリニューアルされていく図書の充実に対しまして今後図書館長の必要性をどのようにお考えか、お尋ねいたします。

**○議長 横尾 武志君**

町長。

**○町長 波多野茂丸君**

課長のお話で、芦屋町の子どもたちに、いわゆる本に親しむというか、そういうこれも芦屋の子どもたちは芦屋で育てるといような大命題でございまして、非常に大事な問題であるにとらえておるわけですが、今申されました館長問題でございまして、議員ご存じのように行革の最中、財政厳しき折でございまして。

とは言いながら、今お話がございましてこのことは大事な問題でございまして、知恵を絞って、とにかく館長、いわゆる責任者が置けるような状態にぜひしたいと、検討させていただきますので、ここで置きますとはっきり言いたいんですけど、もろもろの諸般のいろんな事情もございまして、その辺ごしんしゃくいただきたいと思っております。この答えでよろしいでしょうか。

**○議員 10番 益田美恵子君**

はい、結構でございます。

**○議長 横尾 武志君**

益田議員。

**○議員 10番 益田美恵子君**

それで、検討課題とさせていただきますということで、本当に十分検討をしていただきたいなと思っております。図書館の目的は、子どもたちに読書の楽しみを伝え、図書館の世界に親しむきっかけを与えること、そして、全国の図書館の活動へ子どもを出版文化に関する調査研究を支援する重要な役割を担うと言われておりますので、ぜひそういったもろもろをかんがみていただきまして、検討の課題にのせていただき、ぜひ館長設置の方で進めていただきますよう、努力いただきますようよろしくお願いいたします。

それから、学校図書におきましては、先ほどのご説明がございました。

ただ、その中で1点だけ、先ほど冊数の問題はいいんですが、東小学校の増減の差がちょっとひどかったというのは、今回19年度が低いというのも先ほどの前回廃棄数が少なかったら、今

度は東小学校のマイナス444冊というのが出てきてるといふとらえ方でよろしいですか。

○議長 横尾 武志君

学務課長。

○学務課長 富永 秋則君

毎年定期的にといふことで、定期の数で廃棄、それから、増書という形はとっておりません。実は先ほど申しました東小学校そのものだけに限りませんが、過去から古い、先ほど議員も言われましたけれども、利用をされていないようなものが多々見受けられます。こういったことで、学校の中の司書教諭を中心にしながら図書の刷新ということを出しております。計画的にやっついこうということを出しております。そういう中で、たまたまと申しましょか、東小学校がこれだけの数字が出たということになっております。

加えまして、私ども増書ということですが、毎年一定の国庫補助金ということで、国の方から、いわゆる基準額ということで、芦屋町につきましては、小学校は40万、各学校です。中学校にありましては60万を毎年図書費に充てるという形で、現在なっております。この金額に基づいて各学校が求める図書というのがあります。図書の単価もおのおの違います。

そういったことで、冊数関係については多少の違いはということになっております。そういうことでたまたま、先ほどのご質問の東小学校ということですが、こういう数字が生じたというふうになっております。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

益田議員。

○議員 10番 益田美恵子君

それから、図書司書の教諭資格者、これは随分、これも私は平成14年の3月に質問させていただいたときは、まだ本当に司書の方が少なかったんですけども、今度本当に17名という資格を取っていただいているということは本当に素晴らしいことだな、学校にこのように配置されるといふことは、子どもたちにとっても大きなプラスになるであろうと、このように思っております。

それから、4月23日の「子ども読書の日」ということについては町民会館等で春の図書館祭りですか、そのときにいろんな感想文等の展示もなってるようでございますので、続けてまた内容の充実を図っていただけますようによろしくお願いいたします。

先ほどから10分間読書運動ということでお話があったけれども、子どもたちが静かに心を、授業が始まる前に心を穏やかにすることが最も何か基本に考えて、そのような方法で10分間読書運動ということになっておりますけれども、この読書運動は、子どもが言葉



を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう積極的にそのための環境の整備が推進されなければならないという基本理念に基づいて学校でもそのように行われていると思っておりますので、今後もよろしく願いいたします。

それから、すべてご答弁させていただいておりますので、ブックスタートにつきましても、何かすごく前向きで、ふえているというお話がございましたので、もっともっと幅広く提携していただいて、親子が仲よく、そこから幼児のときから本に触れ合う、そのためのブックスタートでありますので、そこに力を十分入れていただきますことをお願いして終わらせていただきます。ありがとうございました。

**○議長 横尾 武志君**

以上で益田議員の一般質問は終わりました。